

九州大学 大型計算機センターニュース

No. 365

福岡市東区箱崎6丁目10番1号
九州大学大型計算機センター
広報教育室(TEL092-641-1101)
内線 2505

目 次

1. 制限値の変更について	1
2. 磁気テープ装置のサービス変更について	2
3. UTSの磁気テープ利用について	3
4. UTSのファイル容量制限の緩和について	4
5. テキストデータベース管理システムSIGMAの改訂について ...	4
6. 公用データベース「トーマス・マン・ファイル」の再編成に ついて	5
7. 公用データベース「昆虫ファイル」の公開について	5
8. FORTRANプログラム開発・保守支援パッケージWISEPACK の公開について	6

1. 制限値の変更について

1月11日(月)より、各ジョブクラスの制限値を下記の通り変更します。主な変更点は次の通りです。

- ① ファイルアクセス回数の制限値が全体的に緩和された。
- ② ラインプリンタの出力枚数と出力行数の制限値が緩和された。
- ③ 拡張リージョンを使用するTSSジョブの端末接続時間の制限値が緩和された。

1) M780 ジョブクラスと制限値

適用ジョブ		ジョブ タイプ	C時 P間	ファイル アクセス 回数	基本 リージョン サイズ MB	拡張 リージョン サイズ MB	端末 接続 分	ラインプリンタ		XYプロッタ		図形文字 パターン 数	
								出力 枚数	出力 行数	紙長	使用 時間		
パ ッ チ ジ ョ ブ	標準ジョブ		A	2分 10000	5	0	-	600	36000	10	60	100000	
			B	10									100000
			E	60									200000
	M T ジョ ブ	OPEN STATION	N	5									100000
	CLOSED STATION	L	5	100000									
	GRAPHIC JOB		G	10	100000								
T S S	NOAE TSS			10	100000	5	0	240					
	AE TSS			2	100000	5	25	240					

2) VP200 ジョブクラスと制限値

適用ジョブ		ジョブクラス	CPU時間	ファイルアクセス	基本リージョンサイズ	拡張リージョンサイズ	ラインプリンタ		XYプロッタ		図形文字パターン数
							出力枚数	出力行数	紙長	使用時間	
パッチジョブ	AEジョブ	A	分 2	回 10000	MB 5	MB 25	枚 600	行 36000	m 10	分 60	パターン
		B	10	100000							
		F	2	10000	5	55					
			60	200000							

注) 上記制限を超えるものは要審査ジョブ(ジョブクラス“D”)となりますので、受付まで申し出てください。

3) 使用例

- (1) AE TSS (拡張リージョンを使用するTSSセッション)は、ログオン時にSIZEパラメータで9999を指定することにより使用できます。

LOGON TSS 登録番号/パスワード SIZE(9999)

- (2) ジョブクラスFは、ジョブ文のTIMEパラメータでCPU時間2分以下の指定(TIME=2)を行うと、より優先的に処理されます。

//ジョブ名 JOB パスワード, CLASS=F, TIME=2

(第一業務掛 電(内) 2516)

2. 磁気テープ装置のサービス変更について

- 1) 現在オープン室の磁気テープ装置は、記録密度800/1600bpi 2台, 1600/6250bpi 2台の計4台でサービスしていますが、6250bpiの利用者が増加し、逆に800bpiの利用者が減少していますので、1月11日(月)より、800/1600bpi 1台, 1600/6250bpi 3台に変更します。

- 2) センターでは、汎用計算機M780/20で、MSPとUTS(UNIX)の2つのオペレーティングシステムの同時サービスを行なっています。しかし、UTSには専用の磁気テープ装置がなく、他のUNIXシステムで開発されたソフトを、磁気テープを介してUTSに移植するには、

- ①MSPのジョブで、オープン室の磁気テープ装置を利用し、MSPにファイルを作成する。
- ②UTSの端末より、MSP→UTSのファイル転送コマンドを入力し、①のファイルをUTSに転送する。

また、UTS上で開発したソフトを磁気テープにコピーするには、

- ①UTSの端末より、UTS→MSPのファイル転送コマンドを入力し、UTSのファイルをMSPに転送する。
- ②MSPのジョブで、①で作成したMSPのファイルを磁気テープにコピーする。

という手順が必要でした。このファイル転送処理は、M780システムの負荷にも影響があり、また、UTS利用者の操作軽減をはかるため、1月11日(月)より、下記日時は、オープン室の磁気テープ装置の1台をUTS専用としてサービスします。変則的な運用となりますが、ご協力く

ださい。

オープン磁気テープの構成とサービス時間

磁気テープ装置機番	記録密度	時間 9:00~12:30	12:30~オープン室終了
290 291 282	1600/6250 bpi // //	MSPサービス	MSPサービス
283	800/1600 bpi	火・金曜日はUTSサービス 他の曜日はMSPサービス	

(第一業務掛 電(内) 2516)

3. UTSの磁気テープ利用について

1月11日(月)より、火曜日と金曜日の午前中はUTSでオープン室の磁気テープ装置の利用ができます。また、オープン室の磁気テープ装置前の端末の1台(機番:1482)を、この時間帯に限り、UTS専用端末として切り換えます。磁気テープ利用時には、他利用者の磁気テープとの競合(特にNLラベル)に充分注意してください。

使用例(磁気テープを以下、MTと略す)

- (1) MT装置の使用宣言をする(SLラベル)

```
% tape -m w d 1600 vol 通番
```

テープの記録密度(800/1600)
テープの記録密度の指定あり
書き込み可
マウント(省略可)

- (2) MT装置の使用宣言をする(NLラベル)

```
% tape -m w n d 1600 仮vol 通番
```

テープの記録密度(800/1600)
テープの記録密度の指定あり
NLラベル
書き込み可
マウント(省略可)

- (3) MTを283にセットする。

端末に

```
tape /dev/tape/vol 通番 is ready
```

が出力される。

を効率よく維持することができるようになりました。第2版の処理速度は、第1版に比べ大幅に改善されています。

第1版と第2版ではファイルシステムに互換がありません。そのため、SIGMAシステムのためのTSSコマンドとして、SIGMA(第2版用)とSIGMAOLD(第1版用)を用意しました。SIGMAOLDは、移行のためのコマンドで、いずれ廃止する予定です。

利用法の詳細は文献1を参照してください。

参考文献

1. 有川ほか テキストデータベース管理システムSIGMA第2版について、九州大学大型計算機センター広報, Vol. 20, No.6, 1987, 512-581.

(データベース室 電(内) 2508)

6. 公用データベース「トーマス・マン・ファイル」の再編成について

テキストデータベース管理システムSIGMA[2]の改訂に伴って、テキストデータベース「トーマス・マン・ファイル」のファイルを再編成しました。ファイルの編成および利用法の詳細は文献1を参照してください。

参考文献

1. 樋口, 篠原 テキストデータベース「トーマス・マン・ファイル」の完成と再編成について、九州大学大型計算機センター広報, Vol. 20, No.6, 1987, 582-596.
2. 有川ほか テキストデータベース管理システムSIGMA第2版について、九州大学大型計算機センター広報, Vol. 20, No.6, 1987, 512-581.

(データベース室 電(内) 2508)

7. 公用データベース「昆虫ファイル」の公開について

昆虫学関係のデータベース「昆虫ファイル」を12月10日に公開しました。昆虫ファイルは、国内の主要昆虫学雑誌をもとに作成したデータベースで、各文献中の昆虫の分類単位を一つのレコードとしたものです。

利用法の詳細は文献1, 2を参照してください。

参考文献

1. 多田内 SIGMAによる公用データベース 昆虫学データベース(KONCHU)の公開とその利用法、九州大学大型計算機センター広報, Vol. 20, No.6, 1987, 597-614.
2. 有川ほか テキストデータベース管理システムSIGMA第2版について、九州大学大型計算機センター広報, Vol. 20, No.6, 1987, 512-581.

(データベース室 電(内) 2508)

8. PORTTRANプログラム開発・保守支援パッケージWISEPACKの公開について

12月21日(月)に、標記システムを公開しました。WISEPACK (Well Integrated Software Engineering PACKAGE) は、FORTRANプログラムを静的解析し、

- (1)プログラムの木構造の表示、
- (2)GOTO文の分岐先表示、
- (3)DO文の制御範囲の表示、
- (4)IF~THEN~ELSE文のネストレベルの表示

などの情報を出力する。また、ロードモジュールからのプログラムの木構造の表示などプログラムの開発保守にかかわる作業を支援するシステムです。詳細については、文献[1]を参照してください。

使用例1：TSSでの実行（下線は入力部分です）

READY
WISEPACK

WISEPACK ツール選択画面：FORTRANプログラム開発・保守支援パッケージ

ツール番号を指定してください。
====> 2

1.	ANALYZER	FORTRANプログラムの静的解析処理
2.	SPAN	静的解析結果の出力
3.	DOCGE	記述シート of NLP への出力
4.	LOMAN	ロードモジュールの解析結果の出力
5.	MTFILE	磁気テープに格納されているファイル情報の出力
6.	FAMILY	プログラム構造に基づくプログラム単位の転送
7.	PSTOPO	1メンバ当り1プログラム単位のPOファイルの作成
8.	POTOPS	多数メンバのPSファイルへの転送
9.	PRINTPO	POファイルの内容の印刷
10.	PRETTY	FORTRANソースプログラムの整形処理
11.	*SETUP*	WISEPACK/TSS利用環境情報の設定

●ENTERキー：ツール選択 ●PF3/PF4：WISEPACK/TSSの終了

使用例2：BATCHでの実行

```
// EXEC WISEPACK
//ANAL. SYSIN DD DSN=EXAM. FORT77, DISP=SHR
//ANAL. DATA DD *
ELM(*)
//SPAN. DATA DD *
SOURCE
SUBPROGRAM(*)
TREE(*, BRIEF)
//
```

出力結果

(プログラムの木構造の表示；上記の制御文中のTREE(*, BRIEF)による)

```
0001  MAIN-----+---ORTH-----+*TAN
0002          |                               +-*SQRT
0003          +---SCTR
0004          +---INICON-----*SQRT
0005          +---NEWSTP
```

```

0006      +--SMOOTH
0007      +--CRVFIT-----*MOD
0008      +--*MOD
0009      +--*SQRT
0010      +--OUTPUT---+*SQRT
0011      |             +*ATAN
0012      +--FLCON-----+*ATAN
0013      |             +*SQRT
0014      +--LISTUP

```

(GOTO文の分岐先表示, DO文およびIF文のネストレベルの表示;
上記の制御文のSOURCE, SUBPROGRAM(*)による)

<<CRVFIT>> = SUBROUTINE =

```

-----|-----
| CALLER : MAIN
-----|-----
| CALLEE : MOD
-----|-----
0001      SUBROUTINE CRVFIT(AC, A, CA, INEX)          00003660
0002      REAL AC(50, 100), A(50, 100), CA(50, 100)  00003670
0003      COMMON/CM1/N, ML, MT, M, DX/CM7/RE, IEND, IPLT 00003680
          *, LIST, KL, KT, PSL, IOVC, ICAL          00003690
0004      IF(INEX.LT. IOVC) GO TO 37                00003700
0005      IP=MOD(INEX, ICAL)                        00003710
0006      IF(IP.NE.0) GO TO 37                      00003720
0007      1-----DO 20 I=1, N                     00003730
0008      1      CA(I, 2)=(1-RE)*CA(I, 2)+RE*(-.5*AC(I, 1) 00003740
0009      1 2-----DO 20 J=3, M-1                 00003750
0010      ++-----20 CA(I, J)=(1-RE)*CA(I, J)+RE*(-.125)* 00003760
          1AC(I, J-2)-.25*AC(I, J-1)              00003770
          CA(I, M)=(1-RE)*CA(I, M)+RE*(-.5*AC(I, M-2)) 00003780
0011      37 CONTINUE                              00003790
0012      1-----DO 30 I=1, N                     00003800
0013      1      A(I, 1)=AC(I, 1)                  00003810
0014      1 2-----DO 30 J=2, M                 00003820
0015      ++-----30 A(I, J)=AC(I, J-1)+CA(I, J)  00003830
          C                                         00003840
0017      A(I, ML)=(A(I, ML)+A(N, ML))/2          00003850
0018      A(N, ML)=(A(I, ML))                      00003860
0019      A(I, MT)=(A(I, MT)+A(N, MT))/2          00003870
0020      A(N, MT)=(A(I, MT))                      00003880
0021      RETURN                                    00003890
0022      END                                       00003900

```

(サブルーチンの引数, コモン変数, 組み込み関数には下線が付けられる.)

参考文献

1. 計算機マニュアル FACOM OSIV/F4 MSP WISEPACK説明書

(78AR-3050-1), 富士通(株).

(ライブラリ室 電 (内) 2508)